

平成26年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成26年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬には個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市においても、今回実施した調査についての成果及び課題・問題点を吹田市のホームページを通じて発表しております。

この調査は小中学校の最終学年のみを対象とした調査です。また教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをふまえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生の結果をもとに、学校全体として課題に応じた学力向上を図るため、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるなど具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査の概要

- (1) 実施日 4月22日(火)
- (2) 調査対象 中学校3年生全生徒 (同時に小学校6年生も調査対象となっています)
- (3) 実施人数 190人
- (4) 調査内容 国語A、国語B、数学A、数学B、生活習慣や学習環境に関する調査

2. 教科に関する調査結果の分析

【国語A】

- 「書くこと」「読むこと」においては大阪府平均、全国平均よりも正答率を上回り、よく理解できています。「話すこと・聞くこと」については全国と同等で、目的や相手に応じて、話したり、聞くことができています。「国語の知識・理解・技能」については、全国をやや下回るものの大阪府を上回り、おおむね達成できています。

【国語B】

- 「書くこと」、「読むこと」、「国語の知識・理解・技能」の全ての分野において、大阪府を上回るものの全国は下回っています。これは、特に記述式の正答率が低いことに起因します。

【数学A】

- 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」については観点や問題形式に関わらず正答率は全国平均を上回り、知識に関する問題や基礎的な事柄については、よく理解できていることがわかります。

【数学B】

- 「数と式」「図形」「関数」については、いずれも全国平均を上回り、これらの分野については学習した内容を活用する力も定着しているといえます。
- 「資料の活用」の正答率は、大阪府の平均は上回るものの全国平均を下回り、他の分野に較べても正答率は低く、弱い分野であることがわかります。
- 記述式の問題の正答率が極端に低く、考え方や解き方を表現する力が弱いことがわかります。

3. 調査結果を受けての教科授業の改善点

【国語】

- 「国語の授業は好き」と答えている生徒が多数いるにも関わらず、「将来、社会に出たときに役に立つと思う」、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする」という質問には、全国・大阪府よりもかなり低い結果が出ています。記述式の解答が苦手であることもふまえて、論理的な文章を書くことを練習させます。また、将来、役に立つであろう場面も考えさせます。

【数学】

「数学の勉強は好きですか」「授業の内容はよくわかりますか」という質問に対する肯定意見の割合が全国平均より高く、教材の工夫や習熟度別少人数指導の成果が現れているといえます。一方で、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対する肯定意見の割合が全国平均より低く、実生活や身近な場面で数学の知識や技能が役に立つことを実感できるような授業づくりの工夫が必要であるといえます。

また、「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」という質問に対する肯定意見の割合も全国平均を下回り、知識や技能は身につけているものの、なぜそうなるのかということまで踏み込んで理解している生徒が少ないことがわかります。理解を深め知識・技能の定着を図る上でもその根拠をよく理解していることが大切であり、公式や定理がどうやって導かれるのかを丁寧に指導していきたいと思います。

4. 生活習慣や学習環境に関する調査結果の分析

「友達との約束を守る」「人の気持ちのわかる人間になりたい」「同時刻に起きる」「人の役に立つ人間になりたい」「話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞ける」「いじめは、どんな理由があってもよくない」「学校の規則を守る」「物事を最後までやり遂げてうれしかった」「朝食をたべる」の結果は、肯定意見が90%を越えています。

また、「話し合い活動」「授業のはじめに目当てが示されている」についての肯定意見は、全国値より大きく上回り、「授業の最後に学習内容を振り返る活動がよくある」「話し合い活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができた」「毎日同じ時間に起きたり寝たりする」「友達との約束を守る」についても全国値を上回っています。

特に、「普段の授業でみんなで話し合う機会や自分の考えを発表する機会が多くある。問題の解き方や考え方がわかるようにノートを書く」など現3年生が小学校時代の大阪府の調査と比較してみると、話し合う機会を持つことや自分の考えを発表することが増加していることがわかりました。

逆に、「地域行事への参加。地域の出来事への関心度」「地域や社会を良くするために考える」「新聞を読む」「課題を立てて学習したことの発表や自分の考えや意見を発表する」「総合の授業で学習したことは生活や社会で役立つと思う」「家で、学校の予習や復習をする。宿題をする。計画を立てて勉強する」「調べ学習をする」「将来の夢や目標を持っている」「大人は良いところを認める」「友達に言いたいことをうまく伝えられる」「学校に行くのが楽しい」等の肯定観が全国値より下回っているものも多く、地域社会との関わりや家庭学習のあり方、授業改善、仲間づくり等の取り組みを再点検し、その工夫改善を図ります。

最近の3年生は、生活調査からもわかるように授業を比較的落ち着いて受け、ノートの書き方を工夫していることがわかりました。また、あいさつもよくでき、六中祭や体育大会といった学校行事等への参加は全年齢規律がとれており、多くの場面で個々の力を遺憾なく発揮しています。今後、さらに学校生活を充実させ、学力を向上させるためには、家庭学習の定着が不可欠です。そのためにも、基本的な生活習慣を確立し、様々な生活体験や日常的な会話を通じて、自主的に学習に向かう姿勢を身につけさせるような働きかけがますます大切になってきます。各ご家庭におかれましても、ご協力方よろしくをお願いいたします



